

キラリと笑顔が輝くまち

# とばぐらしの魅力を再発見



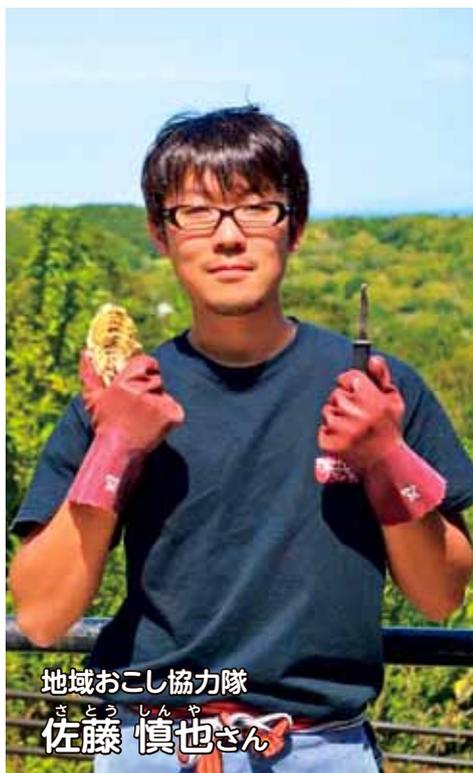
企画財政課移住・定住係 ☎(25) 1227

市では、平成28年を「移住・定住元年」として、都市部からの移住希望者の積極的な受け入れに取り組んでいます。

そこで鳥羽へ移住してイキイキと生活している移住者のかたにスポットを当て、普段当たり前に感じている暮らしの中にある魅力を再発見したいと思います。

今回は、愛知県出身で、東京の大学へ進学し、地域おこし協力隊として鳥羽へ移住した佐藤慎也さんに鳥羽での生活と地域おこし協力隊の活動について話していただきました。佐藤さんは、浦村牡蠣のPRおよび販路拡大や市内朝市団体の支援などを行っています。

※地域おこし協力隊は、総務省の制度で、都市部から地方へ移住し、農林水産業への従事や地域の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。



地域おこし協力隊 佐藤 慎也さん

【鳥羽に移住する前の生活について教えてください】

愛知県出身で、東京の大学に進学しました。東京には、いろんな人や物が集まるので、すごい刺激を受けて生活していました。

当時から今と変わらず自分が好きなものを誰かに勧めたりすることが好きな性格でした。東京で、地方の美味しいものやいいものを探して紹介しているうちに、いつしか地方への憧れを抱いていました。

【地域おこし協力隊に応募したきっかけを教えてください】

浦村のカキです。実はもともカキが嫌いで、食べられなかつたんですが、以前浦村町へ来たとき、せっかくなので食べてみたら、衝撃的な美味しさに驚きました。その時からずっと浦村のカキに魅了され続けています。(笑)

でも、全国的にみるとそのカキの認知度がまだまだ低いのが現状だと思います。そこで鳥羽の美味しい海産物を多

くのかたに知ってもらって、商品価値を上げる手伝いがしたいと思いい応募しました。

【移住する前の鳥羽の印象を教えてください】

出身が名古屋で、水族館には何度か来たことがありました。海のまちということと、サザエとか伊勢エビとか、海産物がおいしいところだと漠然と思っていました。

今回、鳥羽へ来ることが決まり、リサーチしたんですが、いいものがたくさんあってとてもワクワクするところだと思いました。

【実際、鳥羽へ来てワクワクしていますか】

食べ物だと、知らないものやこんな食べれるの？というものが挙げるとキリがないくらいあることを知りました。その調理法も、漁師町ならで





地域のかたに佐藤さんの印象をお聞きしました



麻生の浦会 代表  
小林 一美さん

慎也君が今浦朝市を手伝ってくれるようになって、ばあちゃんたちがすごく喜んでいて、空気が明るくなりました。

また、今まで戸惑っていた、パソコンや朝市のPRを慎也君が手伝ってくれて、本当に大助かりです。

朝市をするときも、早くから来て、終わってからも「こんなことをするといいいね」とずっと話をしているんです。自分たちでは思いつかなかったことを発案してくれたり、こうするほうがいいとアドバイスしてくれたり、なくてはならない存在になっています。

慎也君はすごくやる気がある子だと思うし、一緒に地域を元気にしたいと思っています。

**移住して、生活してみたい感想を教えてください**

最初は、思っていた以上に生活は難しかったです。都会はの無駄にしない方法がたくさんあり、まだまだ知られていない地元文化や知恵などいろいろなものがあると思います。その眠っている調理法などをみんなに知ってもらって、隠れている鳥羽の素晴らしい食材と食べかたを広めていきたいいなと思います、その方法を考えるのが楽しくてとてもワクワクしています。

**今後どのような事をしていきたいですか**

鳥羽には、まだまだ知られていないけど美味しいものたくさん食べられている。「実はこんな食べ方がある」と

ではドライな関係が多かったんですが、鳥羽では、だれかの家にお邪魔すると「これ食えー」といろいろ出してきて、突然だれかが訪ねてきて、食べ物ももらったりします。その分手伝いをするなど、持ちつ持たれつの関係や田舎ならではの人付き合いがすごく楽しいと思います。

しか食べられない」というものを、いろんなかたに知ってもらいたいんです。そこで、鳥羽のいいところや食文化や生活をたくさんのかたに発信して、鳥羽の価値や魅力を上げていきたいです。

ただ、地域おこし協力隊には3年間という任期があり、そのあと具体的に何をするかは、絶賛悩み中です。とにかく今は、自分が頑張ることで、漁師さんや農家さん、商売するかたが活躍できることを探していきたいと思っています。